

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和7年7月4日

氏名 山口 哲司

所属 比較教育社会学 コース

指導教員名 本田由紀

1. 研究課題 高校生の職業希望と進路選択の関係

2. 報告する学術活動の実施期間 令和7年6月28日 ~ 令和6年6月29日

3. 日本学術振興会特別研究員（DC）の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し

4. 学術活動

- 国外 国内
- ①英語論文公表
- ②研究科教員の研究プロジェクト参加
- ③フィールドワーク
- ④国際会議（研究発表 運営補助 出席のみ）
- ⑤研究会（研究発表 運営補助 出席のみ）
- ⑥研究指導委託
- ⑦留学
- ⑧国際研修
- ⑨国際インターンシップ
- ⑩その他（具体的に： _____)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	④国際会議(研究発表)
<p>【学会・会議名】 Social Stratification and Mobility 2nd International Workshop</p> <p>【国名・都市名】 日本・東京</p> <p>【発表題目名】 The Influence of "Significant Others" on Students' Occupational Aspiration</p> <p>【発表形式(口頭・ポスター等)】 ポスター</p> <p>【発表年月日】 2025年6月28日</p> <p>【発表内容等の概要】 青年期の職業希望はその後の進路選択や地位達成を説明する変数として重要である。しかし、社会階層論における職業アスピレーション研究は、職業希望を職業の社会経済的地位をもとに操作化するものに限られ、また「重要な他者」としての親のどのような働きかけが職業希望形成に影響するか明らかでない。本研究では職業希望の有無や資格職希望に着目し、「子どもの生活と学びに関する親子調査」を用いて、中学生・高校生について上記の論点を検討する。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

青年期の職業希望はその後の進路選択や地位達成を説明する変数として重要である。しかし、社会階層論における職業アスピレーション研究は、職業希望を職業の社会経済的地位をもとに操作化するものに限られ、また「重要な他者」としての親のどのような働きかけが職業希望形成に影響するか明らかでない。本研究では職業希望の有無や資格職希望に着目し、「子どもの生活と学びに関する親子調査」を用いて、中学生・高校生について上記の論点を検討した。

ポスター発表では、国外からの参加者を含む多くの大学院生、先生方から有益な示唆を得た。他の分析手法を用いる可能性や、親の働きかけ自体が高校トラックによって分断されているために、小学生から中学生までを分析対象とする可能性など、今後の分析に関する重要な指摘を得た。また、ジェンダーによる違いをさらに考慮することや、生徒の学力的な要因を統制する必要性など、他に考慮すべき変数について、新たな視点を得ることができた。海外の研究動向を踏まえた本研究の問題設定に対して興味をもってくれた参加者もみられた。

今回の報告では以上のような示唆を得たことで、本研究を論文として組み立てる際に想定すべき論点のいくつかが明確になり、かつ本研究を国際的に位置づけ、発信するための示唆を得ることができた。